

# 聖愛



六月号  
原町聖愛保育園

二〇〇九年六月一日発行

畑にまいた人参とほうれん草の種から小さな芽が出たのを真っ先に見つけた子どもたち。小さな芽の上を歩くみつちゃん(バリケン) 種類:カモの仲間)に、「みつちゃん、だめだよ」と注意する小さな声を野菜の生長を楽しみにしている子どもの気持ちが伝わってきました。

## 子どもの成長と親のかかわり

何年か前に、「こんな風に育てた覚えがない」とか、「もう一度お腹に入れて生みなおしたい」といった言葉を、何人かのお母さんから聞いたことがあります。このように言った訳は、子どもが親の言うことを聞かず、親が手を焼いている・困っている。子どもが何か悪いことをして親としての面目が立たない。などいろいろあるようですが、こぼの文(あも)としての話とはいえ、子どもの存在や成長をあまりにも無視した言葉です。

子どもに関係することで、親として何か不都合なことが生じた場合、その過程のことは省みられずに結果だけで原因は子どもにあると思ってしまうがちです。しかし、それ以前の、親から子への係わり合いはどうだったのでしょうか。

子どもは日々、一瞬一瞬の間も経験や教え、周りの状況を見て感じて全身で学びます。ですからこのことを考えると、いつも傍にいる親(大人)のかかわりや考え、願いは、子どもの成長にとっても影響を与えていることを十分に認識していなければなりません。

子どもが自分の意思で言ったりやったりできないことは、守り過ぎて溺愛してしまいがちです。すると、子どもの自分でやってみようという意欲をも、奪うことになってしまいます。逆の例では、子どもの気持ちを尊重すると言って、尊重と放任を取り違え、子ども自身が善悪の判断や危険回避がまだできない時期の自由勝手な行動に、ちよつと目をやるだけで容認していたり、一度タメといつたことでも簡単に許したり、子どもに言われるままになっていたりしている場面も多々見受けられます。子どもの行動が、明らかにその状況を捉えた注意や正しいやり方など(時には我慢)を、教える必要があるときはその都度、教えたり気を配ったりしなければなりません。毎日の挨拶なども、たとえば子どもにはやるよう促しても親はしないとか、ありがたうやごめんなさいといった、感謝や相手の気持ちに気付く力(思いやり)になる言葉を、自分から進んで言える子どもも少ないように感じます。


子どもが成長と共に広がっていく社会の中で、自分なりに考え判断ができるようになるには、日常経験することを土台としていきます。ですから、子どもの成長に合わせた親(大人)の関わりを丁寧にするのが大事です。

子どもにどのように教えたらいのか迷うことがたくさんあると思います。善い・悪い、を曖昧にしないで伝えることを、先ずは親の心の中に決めて実行しましょう。

園長 遠藤美保子

## 6月の保育目標 主題 0、1、2歳児「なになな」 3、4、5歳児「気付く」

暗唱聖句「神は御自分にかたどって人を創造された」創世記 1章27節

年齢	保育目標	活動	保育者の配慮
0歳児 てんし	戸外で過ごすことに慣れ 周りのものに興味を示す	・外気・日光浴 ・散歩(園外) ・ボールまてまて遊び ・新聞を使って音遊び	・草花や砂、土に触れる機会を設け、保育者と一緒に安心して戸外遊びが楽しめるよう配慮する。遊んだ後は、濡れタオルや水道で手を洗い、清潔を保つ。 ・子どもの示す行動や要求に適切に応え、周りの大人との関わりを喜び、投げかけたことや言葉、あやしなどに応じて関心を向けられるようにする。
1歳児 つぼみ	戸外で体を十分に動かしたり、探索活動を楽しむ	・ダンボール遊び ・散歩(歩く・坂道・デコボコ道) ・布、パスタオル遊び ・なぐり描き ・まてまて追いかけっこ	・十分に戸外で遊べるよう時間配分を考え、歩いたり、走ったりなど体を動かし、気持ちよさを感じられるようにする。 ・保育者がやっている姿を見せたり、友だちがやっていると楽しんでいる様子を見て、自分からやってみようとする気持ちを引き出す。
2歳児 はな	保育者の行動をそばで見、興味を持ち、一緒にやってみる	・散歩 ・粘土遊び ・葉っぱ探し ・折り紙 ・タッチゲーム 	・子ども一人ひとりの興味・関心を引き出せるよう、常に保育者からの関係作りを努める。 ・新しい遊びで使用する物の正しい使い方や方法を、保育者が丁寧にやってみせて、楽しさやおもしろさに気づけるようにする。 ・保育者が楽しく行動し、雰囲気作りをする。
ファミリークラス 3歳児 4歳児 5歳児	遊びを通して、友だちの思いに気づく	《室内》 ・ままごと・積み木・粘土 ・ぼかし絵(なみ) ※1 ・切り絵遊び(なみ) ※1	※1 色の混ざり合いや広がり、不思議さを感じ、製作する中で想像を広げながら楽しめるよう、じっくり取り組める環境を作る。 ※2 集団遊びに誘い、約束や順番を守って楽しめるよう配慮する。また、相手の思いにも気付くよう、声掛けや代弁をして知らせる。
	見て、触れて色々なことに 気付き、楽しむ	・デカルコマニー(ほし) ※3 ・水彩画(つき) ※5 《戸外》 ・散歩(草花観察) ・鬼ごっこ(なみ) ※2	※3 偶然出来た模様から色タイメージをし、面白さが発見できるよう言葉を引き出したり、素材や形を変え、何度も試し、楽しめるよう提供する。 ※4 友だちや年長児の様子を見て、どうしたら出来るのか、試行錯誤しながらコツを教えてもらい、繰り返し遊ぶ中で面白さが感じられるよう環境を整えていく。
	五感を使い、感じたことや 気付いたことを表現し、 楽しむ	・立ち幅跳び(ほし) ※4 ・障害物リレー ※6 ・鼓笛隊、係りの仕事(つき)	※5 画用紙いっぱいのにびのびと描けるように促し、子ども自ら描きたいものを楽しんで表現できるよう、素材の提供の工夫や意見を吸い上げるなど配慮する。 ※6 子ども一人一人の関心や興味を、活動の中で見極め、年齢や発達に見合った援助を心がける。また、ねらいについて再確認し、子どもが目標に向かって頑張ったり、真剣に取り組めるような働きかけをする。

◎ 6月の行事予定 ◎

日	園の行事	職員の予定
1(月)	しゃりん梅訪問 (ほし)	
2(火)	ペンテコステ礼拝	
3(水)	子育てサークル (レインボーG)	職員会議
4(木)	ポップコーン (クラブ活動)	構造化会議 救急救命講習会①
5(金)	世代間交流事業「ちまき作り」	
9(火)	久米本先生指導 歯科検診 (全員)	聖書研究「めぐみの会」
10(水)	食育体験：豆腐作り (かぜ) 子育てサークル (プーさんG)	企画会議
11(木)	小人さんの音楽会	
12(金)	食育体験：豆腐作り (ひかり)	救急救命講習会②
15(月)	久米本先生指導	職員健康診断 (~ 18日)
16(火)	花の日こどもの日礼拝 長寿荘訪問 (つき)	
17(水)	食育体験：豆腐作り (みず) 子育てサークル (レインボーG)	マネージャー会議
19(金)	健康診断 (全クラス)	保護者会レクリエーション 「小物作り」
22(月)	お弁当の日	お母さん勉強会
23(火)		聖書研究「タラントの会」 園内研修
24(水)	ポップコーン (クラブ活動) 子育てサークル (プーさんG)	給食会議
25(木)	保育参観・子育て講話	
26(金)	しゃりん梅訪問 (ほし)	
29(月)	避難訓練	

【ペンテコステ礼拝】

6月2日 (火)



ペンテコステは、「聖霊降臨日」といって、イースターから数えて50日目に当たる日に祝われます。クリスマスイースターに並ぶキリスト教の三大祭りの一つです。

聖霊 (神の大きく賢い力) が一人ひとりに降りました。神様のお言葉が人々に強く語られ、人々が集められました。この時が、「教会」の始まりとなったのです。

神さまの大きな愛の力は、今も私たちの上に注がれています。このことを喜び感謝して、つき・ほし組は教会の礼拝堂でペンテコステ礼拝を守ります。また、年少クラスでもこの日を記念して、各クラスでお祝いの礼拝を守ります。

前日には、ペンテコステのシンボル「ハト」を型どったクッキーをファミリークラスの子どもたちが作ります。



【世代間交流事業 ちまき作り】

6月5日 (金)

9時30分～

対象：二見長栄会の皆さんとつき組 (5歳児)

場所：原町聖愛保育園 ホール

ご近所の方々とちまき作りを一緒にしながら、昔遊んだ頃の話を開いたり、歌を歌ったりして楽しい時間を過ごします。

出来上がった「ちまき」は、園児の午後のおやつにします。

※つき組は当日、三角巾とエプロンを持参させてください。

【保育参観・子育て講話について】



日時：2009年6月25日 (木)

9時00分～10時30分 保育室で保育参観

10時30分～12時00分 子育て講話

場所：原町聖愛保育園

各クラスでの子どもたちの様子はもちろん、成長した姿や友だちとの関わりなどゆっくりとご覧ください。

子育て講話につきましては、「志賀 邦瑞 (くにみつ先生)」をお迎えしてシュタイナーの考えについて学びのときを持ちます。

詳細については別紙にて、お知らせします。



【“体験の大切さ”に気がつく】

体験の大切さについて考えましょう。

本当の生きがいを感じるにはどうということなのでしょうか？それを知るにはどうしたらいいのでしょうか。その手がかりは自分の人生にあります。日常生活の中にあります。感動した事、忘れられない出会い、人生を変えたことなどの中に生きる意味を理解するヒントがあります。すばらしい体験の中に生きがいをつかむきっかけがあります。

自分は今まで、いつすばらしいものに出会ったか。将来すばらしいものに、いつ、どこで出会えるのか、そして出会うにはどうしたらいいのか。そう問いを立ててみるのが肝心です。…中略…

ふつう勉強というと、知識を増やし思想を理解することです。

…略…

しかし人間を理解するには、自分の体験が大きなきっかけとなります。知識を増やす以上に素晴らしい体験を増やすことが重要です。宝は日常生活の中に隠れているのです。

「はじめてのシュタイナー～人生のヒント～」から一部抜粋

特に幼児期は、見るものすべてに興味深く、大人の真似をします。知識ばかりを詰め込むのではなく、実際にやってみて、自分の体験として学ぶことの方がはるかに価値があります。

「危ないから」「まだ出来ない」「難しいから」と大人の目線で物事を判断するのではなく、子どもたちの様子をしっかりと見て、少し頑張れば出来るようなことも経験させましょう。

頑張って出来た時の達成感や満足感は、次の子どもの成長を促すきっかけや力となります。



【お知らせ】

- 1、清川文子 (ふみこ) 先生 5月22日より勤務。  
(てんし組担任)
- 2、衣替え 6月1日より、園服が冬服から夏服に替わります。  
「まめや」で販売していますので、お求め下さい。  
(在庫不足のため、すぐに購入できないこともあります。お問い合わせ下さい。)
- 3、着替え用の服を、薄手のものか半袖のものに交換して下さい。

家庭訪問のご協力

ありがとうございました。

